

栽培漁業技術開発調査（エゾバフンウニ養殖用大型種苗の育成） （経常研究：R4-8）

協力機関：工業試験場、北大水産学部、北海道立工業技術センター、北電総研、浜中・散布漁協、泊栽培漁業センター

研究の背景・目的

エゾバフンウニは国内で生産されるウニ類の中で最も多く、その大半は北海道で生産されているが、養殖の事業化に成功しているのは、釧路管内の浜中・散布地区のみである。養殖エゾバフンウニは、身入り、サイズ、色が揃っていることから非常に高品質とされ、取引価格も高価である。エゾバフンウニの漁獲の大半は現在も天然資源の漁獲であるが、身入りや身色が養殖に比べばらつきが大きく、養殖に比べ単価が安い。養殖用に向けた大型の種苗が各地で望まれているが、効率的に生産できる環境要因は明らかになっていない。エゾバフンウニの種苗は殻径20mm程度から成熟するものが現れるが、成熟を開始した個体は成長が鈍くなるという報告があることから、成熟開始を遅らせることで成長を促せる可能性がある。本研究では、エゾバフンウニの養殖向けの大型種苗を育成するのに適した飼育条件を明らかにすることを目的とする。

研究内容

1) エゾバフンウニ稚ウニの殻成長に適した飼育環境の解明 (2022～2026年度 栽培水試)

殻径5mmから20mmまで稚ウニを育成するのに適した飼育環境条件を明らかにする。



水温・日長・
給餌条件

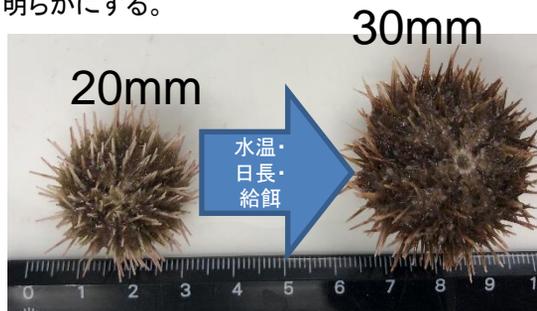
養殖用20mm種苗 (Cultivation-ready 20mm seedlings)



20mmまで効率よく育成できる飼育条件を明らかに

2) エゾバフンウニ稚ウニの初回成熟抑制につながる環境要因の解明 (2022～2026年度 栽培水試)

殻の成長を促すため、稚ウニの初回成熟を抑制する環境要因を明らかにする。



初回成熟を抑制できる飼育条件を明らかに

目指す成果

- ・エゾバフンウニの養殖用大型種苗を効率的に生産するための至適飼育条件が明らかになる。
- ・エゾバフンウニの成熟を抑制し、成長を促す手法が明らかになる。

研究成果の活用

- ・エゾバフンウニの養殖向け大型種苗を要望される種苗生産施設に、効率的な大型種苗生産の技術を提供する。
- ・大型種苗の放流による資源増大を検討することができる。